

観察が楽しい サンコウチョウ



サンコウチョウは魅力が一杯 観ているだけで楽しくなります 歌声を聞けばパラダイス
いままでに観察できましたこと、まだ生態の一部ではありますが、ここに発表させていただきます。

サンコウチョウの「アイリング・嘴・糸状羽」について



記述の、一部において私の野鳥生態観察から、そして撮影できた画像から考察をしたものがあります。

私見がありますが、間違いや、言い過ぎがありましたらお許しをお願いいたします。なお、尾羽につきましては、別稿にて報告を致します。

野鳥生態観察家 三宅 慶一

サンコウチョウのアイリングは特大です。その色は鮮やかなコバルトブルー。そして、クチバシ(嘴)の色までコバルトブルー。画像で見ると、どちらもとても目立ちます。綺麗です。口を開ければ、糸状羽も鮮明に解ります。

独特な「アイリング・嘴・糸状羽」の画像を、他の野鳥の例を提示しながら、これより順次提示をしていきます。強拡大のため不鮮明な画像が多くありますが、参考になりましたら、嬉しい限りであります。



画像の場合、真実の提示であります。その真実を見つめ「画像(情報)をどのように判断(解釈)するのか」がおもしろいところでもあります。なお、ここに提示されている画像の全ては、筆者の撮影によるものであります。

アイリングについて

一般的に言って、顔部の「眼瞼周囲において、やや幅をもってリング状になっている明瞭な領域が認められる」ものを「アイリング」といわれているとおもわれます。

「アイリング」といわれているものに、2種類あります。

眼瞼部に生(は)えている羽が、眼瞼周囲に生えている羽色と違った色であり、そして、同じ羽色でもって、しかもある程度幅をもって明瞭にリング状を形成しているものであります (p4.5 参照)。

もう一つは、羽の生えていない眼瞼の縁「裸出した皮膚」が、眼瞼周囲に生えている羽色と異なり、ある程度分厚く、または幅をもってリング状を形成しているものであります (p6.7 参照)。



羽で形成されているアイリング



眼瞼縁の「裸出した皮膚」で形成されているアイリング p3

羽のアイリング



サメビタキ



コサメビタキ



オジロビタキ



エゾビタキ

羽のアイリング

羽のアイリングにおいては、嘴の色と同じ色はないようです。
時計の3時と9時の位置に、リングのわずかな欠損部分が認められることがあります（メジロは顕著 3p 参照）。



ルリビタキ（雌模様）



ノジコ



イソシギ



キアシシギ

眼瞼縁 裸出した皮膚のアイリング

皮膚アイリングにおいて、嘴基部周辺、鼻孔周辺、ロウ膜および嘴全域に、アイリングと同じ色が認められることがあります。



コチドリ



ジュウイチ



クロツグミ(嘴全域が同じ色)



シロハラ



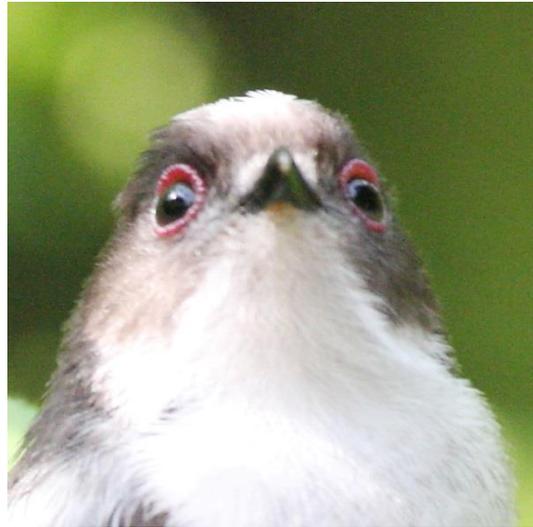
ツツドリ(とおもわれる)

眼瞼縁 裸出した皮膚のアイリング

皮膚アイリングにおいて、成長過程・繁殖時期・季節によって、アイリングの色の変化が認められることがあります。



コチドリ幼鳥
幼鳥時から鮮明です



エナガ幼鳥
眼瞼全周が赤く鮮明です



エナガ成鳥 リング状ではありません
上部半分のみ黄色です



チョウゲンボウ（ロウ膜が同じ色）



キジバト（繁殖期に明瞭となります。橙色は虹彩の色）p7

サンコウチョウの アイリング について



眼瞼縁の「裸出した皮膚」でできたアイリングであります。特大です。日本では他に例がない大きさです。色は、鮮やかなコバルトブルー。そして、嘴までもコバルトブルーであります。アイリングと嘴の全域が同色であることは、他にあまり例がないとおもわれます(クロツグミ他ツグミ類に数種認められますが 6p 参照)。

(注)このアイリングの状態は繁殖期においてであります p8

サンコウチョウの アイリングは独特であります

サンコウチョウの繁殖期において、雄のアイリングは、特大です(P10.11.12)。
雌のアイリングは、雄よりやや小さめですが他の鳥よりは大きく立派なものであります(P13)。

図鑑でみるサンコウチョウ雄のトレードマークである大きなアイリングと長い尾羽は、雄の繁殖期だけのものであります。繁殖期が終わり、秋に日本を渡去する時には、アイリングは縮小し、コバルトブルー色も消退しやや黒くなりますが、それだけではなく、雄の長い尾羽は脱落します。
また、渡去前の雌成鳥と幼鳥のアイリングにおいても、特別目立つものではありません。

(尾羽については、別稿『サンコウチョウ 雄の「尾羽の不思議」』に報告をしています)。

繁殖期の雄のアイリングは、羽の生えていない眼瞼縁の裸出した皮膚がとても巨大化していますが、肉垂のように垂れてはいません。
しかし、少しは襞(ひだ)状となっているように見えます。
襞が、羽部にまで延長している(はみ出している)ところが撮影画像にて確認できました。
このことも他に例はありません。サンコウチョウのアイリングは独特なものとおもわれます。

また、アイリングには、自転車のスポークのような放射状の筋を認めました。
例として大八車の車輪のような模様のようになっています(古い例であります)。

トピックです。サンコウチョウが、糸状羽部に異物(ホコリ?クモの糸?幼虫の糸?)が付着したため、それを除去しようとして糸状部(顔)を擦りました。
そのとき、アイリング部分が浮いたようになり、アイリングの変形が確認できました。
そのときの一連の行動を撮影しましたので、その画像を提示いたします(p12)。

サンコウチョウ 雄成鳥（繁殖期）の アイリング



眼鏡を掛けたように見える アイリング

著しく発達した眼瞼縁の裸出した皮膚の部分が、鬚状にはみ出しているためとおもわれます





ひだ状の アイリング

糸状羽に付着した異物(クモの糸?)を除去するため、木の枝に顔部を擦りました。そのため アイリングが変形しました。

このことは、アイリングの皮膚の部分がひだ(襞)状に肥大していることの証であるとおもわれます。皮膚ひだが変形しているのです。



サンコウチョウ 雌の アイリング

雌のアイリングは、雄より幅が狭く、その上、コバルトブルー色が、それほど鮮やかではありません。やや暗い色彩ですね(嘴の色も同じように暗い色彩となっています)。そのため、雄のアイリングほどは目立ちません。ですが、これでも他の鳥よりは大きなアイリングであるとおもわれます。



繁殖期における 雄成鳥の 嘴

嘴の外側面の色は、綺麗なコバルトブルー
そして、アイリングの色も同じコバルトブルー



嘴の内側面の色は明るい黄緑色
イエローグリーン



この場面は抱卵中です。小声でホイホイホイと鳴いて
いました。メスに対しての合図かもしれません。 p14

サンコウチョウ の 歌 ホイホイホイ

嘴の内側面の色は明るい黄緑色
イエローグリーン

口を大きく開き歌を唄います。ホイホイホイと唄っていました。
観察者まで楽しくなります。

で、ありますから 英名には、Paradise パラダイス

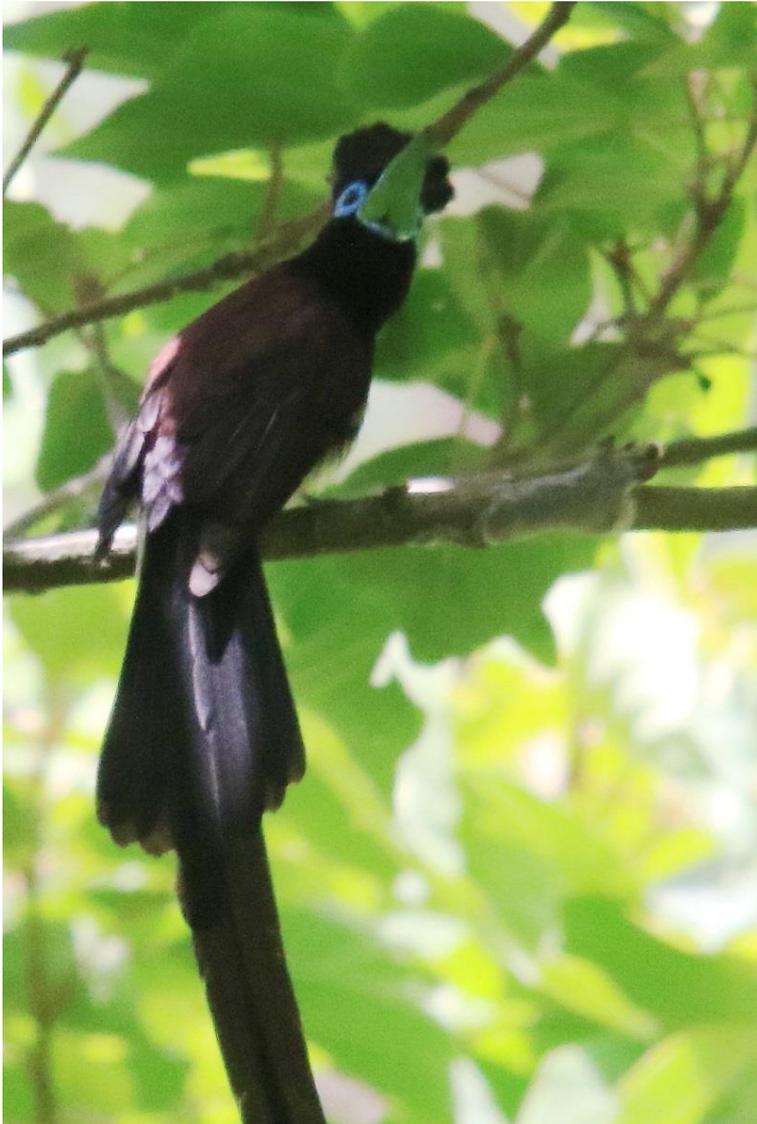
学名には、Terpsiphone 楽しい歌 がついているのですね

英名 : japanese paradise flycatcher

学名 : Terpsiphone atrocaudata

atrocaudata : 黒い尾をもつ

(内田清一郎著 : 鳥の学名より)





ヨタカ

糸状羽について

撮影できました野鳥において
糸状羽が目立つものを集めてみました
参考にして下さい。

強拡大のため画像が悪いですが
この画像をさらに拡大されると、
もう少し鮮明になります



オジロビタキ



メボソムシクイ



オオヨシキリ



モズ



ヒヨドリ



アカハラ



ハチジョウツグミ

糸状羽 について

捕虫網として ゴミの侵入阻止(防止)装置として 機能するなどといわれています



フライキャッチャーのエゾビタキ 糸状羽が発達している



モズのフライキャッチ 糸状羽が比較的発達している

フライキャッチャー Flycatcher について

フライ とは「ハエ」のこと

フライキャッチャー とは ハエをとるもの の意

でありますから、フライキャッチャー の糸状羽は

捕虫網として 発達しているものとおもわれます(P18参照)

フライキャッチ (fly catching) とは 飛びつき捕食法のこと

(野鳥用語小辞典)唐沢孝一著 グリーンブックス110 より

フライキャッチをしないであろうとおもわれるツグミ類にも
糸状羽が認められます。地上で餌を探しているときの、
口内・鼻・眼へのごみ侵入防止装置となるとおもわれます。



ツグミ

地上での採餌が多い

サンコウチョウはフライキャッチャー

サンコウチョウはカササギヒタキ科サンコウチョウ属 Japanese Paradise Flycatcher



英名のFlycatcherと名のつく日本産の鳥にはその多くがヒタキ科の鳥であり、サメビタキ属、キビタキ属、オオルリ属で占められています。



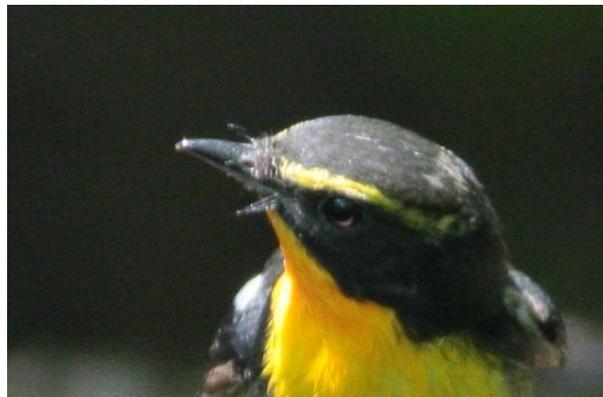
コサメビタキ Asian Brown Flycatcher



サメビタキ Dark-sided Flycatcher



オオルリ Blue-and-white Flycatcher



キビタキ Narcissus Flycatcher



エゾビタキ Gray-spotted Flycatcher p18

サンコウチョウの 糸状羽



サンコウチョウの糸状羽は、特別長いとおもわれます。長くても顔が黒いので肉眼や双眼鏡での観察ではほとんど解りません。口を開けた時に撮影できた画像によって、立派な糸状羽が確認できました。

この大きく開いた口と立派な糸状羽との合作の「強大捕虫網」を用いて、飛翔昆虫をゲットしているのですね。

サンコウチョウが飛翔昆虫をゲット(フライキャチ)しました



里山の薄暗い林の中を歩いていると、ヒラヒラと飛翔している「白い蛾」をよく見かけます。私は「サンコウチョウの餌が飛んでいる」とおもって見えています。サンコウチョウこの辺りにいないかな。サンコウチョウがフライキャッチしやすい飛翔昆虫の1つであるとおもわれます。

秋の観察例を増やさなければなりません

2つの画像は、秋に撮影しましたサンコウチョウです。

繁殖が終わった秋のアイリングと尾の状態です。

秋には、雌成鳥、雄成鳥、そしてその年生まれた幼鳥(雌雄)がいますが、すべて尾が短いものばかりであります。また綺麗な大きなアイリングもみられません。この時期、成鳥雌雄・幼鳥の識別は、とても難しいものであるとおもわれます。より多くの観察例が必要とおもわれますが、秋の発見・観察は簡単なことではありません。

秋の成鳥雌雄と幼鳥を含めた識別図鑑ができればとおもっています。

私には、まだ、秋の観察例が乏しく、多くの画像の提示ができず申し訳ありません。

今後もサンコウチョウの観察を続け、秋の生態を調査したいところであります。

今後の調査が必要なのですが、飼育実験ができれば最高とおもっています。



冠羽が目立ちますので雄成鳥ではないかとおもわれます



今年度生まれの幼鳥とおもわれます

可憐な鳥たちの営巣を発見しますと、いつも心配をします。
私に見つかるぐらいだから、大丈夫？
鳥たちの繁殖が無事終了することを祈るばかりです。

近年、サンコウチョウの生息数が
減少傾向とのこと、心配されています
サンコウチョウの繁栄を願っています



最後までありがとうございました。まだ観察途中の情報収集中であります。未完成な生態観察報告であります、トピックスとして、急いでの報告となりました。参考になりましたらとてもうれしく思います。

サンコウチョウに愛をこめて 2022年11月 記 野鳥生態観察家 三宅 慶一